



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第5号

2025年6月4日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

2025年度 第1回SP研修会 開催!!

5月24日（土）午後、今年度1回目のSP研修会をメモリーとんがったスタイル文化センターで開催しました。あいにくの雨模様、そして土曜日にも関わらず、10名以上の学生さんが教育について学ぼうと集まってくれました。それぞれ熱い想いを持って来てくれた、エネルギー溢れる学生さんの姿を見ると、「これからの日本の教育を支えていくのは、こんな若い先生たちだろうなあ」と思います。頼もしさを感じるとともに、ワクワクします。

昨年度に引き続き、今回も東浦町個性化教育アドバイザーの鬼頭学先生にご登壇いただきました。今回の研修会では、グループワークをたくさん行いました。同じ志を持つ仲間と出会い、参加者全員が教育について語ることを楽しんでいる、とても心地のよい研修会となりました。4月から現場に出たシニアSP（卒業生）も参加してくれました。「学生の方は分からなかったことも、教師になった今だから分かることがありました。沁みるものがありました。」と話してくれました。参加者のみなさん、お疲れ様でした。



SPさんの感想

私は、もともと教師を目指していますが、今日のお話を聞き、どんな教師になりたいかがより明確になったような気がしました。「良い教師・できる教師というのに正解はない」と聞き、常に自分の理想を求め続けることが大切であると感じました。また、学び＝遊びということが印象に残りました。遊んでいる時もルールに従うことや仲間と協力したり話し合ったりすることがあると思うので、そういった場面を想像しました。そして、子どもたちが主体的で対話的な学びをするためには、教師がそういった場面を作ってあげることが大切だと思いました。子どもは、一方的に知識を教えられたり、体を動かすことがなく暇な時間があると飽きてしまったりして、自ら学ぼうとする姿勢がなくなってしまうと思います。そのため、タブレットを生かした授業やペア・グループ活動などをしてみたいと考えました。今日のグループでの話し合いは、自分の悩みを聞いてもらうことができて、とても楽しかったです。同じ年齢の同じ教師を目指す者同士だからこそ言えることもあり、とても良い機会になりました。

【名古屋芸術大学 3年】

グループワークでは、自身のSP活動の経験話をしましたが、思ったより口が止まらず話しくってしまいました。しかし、これだけ話ができるほど、いろいろな経験をさせていただけているのだと感じました。グループの他の2人は、SP活動は未経験とのことだったので、「ぜひやってほしい！」と思いましたし、話をしたことで、改めて自分はすごい経験ができているのだと感じました。話をすることで、自分の想いや経験したことが整理できたので良かったです。【日本福祉大学 3年】

SP研修会で鬼頭先生・緒方さんのお話を聞き、大きな学びを得ました。今まで、「SPって何をするのだろう」と疑問に思っていたのですが、お話を聞いて、その役割や思いが明確になり、心に響きました。子どもに寄り添う先生になるにはどうすれば良いのか？忙しい現場の中ではそれを実践することは難しさがあると思います。だからこそ、学生の内に学ぶことが必要だと知ることができました。シニアSPの方が、「SPで学んだ経験が今に生きている。」とお話されていたことが印象に残っています。また、「自分がなぜ教師を目指したのか」という問いに改めて向き合う機会となりました。出会ってきた先生方のように、子どもの可能性を信じて寄り添える存在になりたいという原点を思い出しました。現場を離れてもなお、教育の未来に貢献されている先生の姿に心を打たれ、教職は人の人生に希望を与える素敵な仕事だと再認識しました。【名古屋学芸大学 2年】

「教師」「教員」という言葉は、普段混在させてしまっていた気がします。子どもたちや保護者から、「学校の中の先生の1人」という認識ではなく、“教師”の意味で信頼してもらえる教師を目指したと思います。また、子どもから「こんな先生でいてほしい」という内容は考えるけれど、自分が子どもの頃どうだったか、どんな願いがあったかということを忘れかけてしまっていました。自分が子どもの時に思っていたことや、先生の事、授業のことを思い出しながら、子ども目線を忘れない教師でいたいです。今日話を聞いて、早く子どもたちと関わりたくなりました。

【名古屋学芸大学 2年】

私は、小・中学生の頃に、児童生徒の立場としてSPと関わっていました。「大学生になったら私も参加したい。」と思っていたので、今日、SPに関する貴重なお話を聞くことができ良かったです。「良い教師・できる教師」について考えてみて、自分の考えだけではなく、グループワークや発表を通していろいろな方の意見を聞いて考えを深めることができました。これからの教育のお話では、学習の主体を子どもたちに転換していくために、教師も時代に合わせて変わっていく必要があると感じました。私も4年間を通して、自分なりに「良い教師・できる教師」について考えて行きたいです。SPとして活動したいという気持ちも高くなりました。【名古屋学芸大学 1年】

同じ教師を目指す人が集まる機会に参加できて良かったです。大学には同じ養護教諭を目指す友人がいますが、真剣に教師像や子ども観について話し合うことはまずありません。目指す職が一緒だと、思考が似ている部分も多いです。実際に現場に立った人や違う専門性を持った人の話を聞くことができ、自分の考えが広がるきっかけになりました。また、子ども理解を深めることができれば、子どもに寄り添ったり優しくしたりする方法も分かってくるような気がします。子ども観を深めるためには、経験が重要だと思います。しかし、子どもに接する機会自体あまりないのが現状です。(あったとしても見つけにくい……。) SP活動に参加する前に話を聞けたのは安心できます。実習も控えていて不安も多いですが、SPでの経験をできるだけ生かせると良いなと思います。グループワークがあったことも本当に有難かったです。【名古屋学芸大学 1年】

東浦町は、政策方針で個別化個性化教育を推進していることを知ることができました。「教師が教える」から「子どもが学ぶ」というお話から、**教師の資質・能力がさらに求められる時代になっている**のだと考えました。また、「先生が居場所になる」という言葉がとても印象に残っていて、子どもの拠り所になるためには、子ども理解を進めることがとても重要になってくるのだと思いました。グループワークで、「一人の子どもがＳＰに離れてほしくなくてずっと近くにいた時、他の子と関われず、いつその子を切り離すか迷った。」と話している人がいました。そのような場面は現場に出た時に絶対に遭遇すると思うのですが、教育実習ではなかなか経験できないと思います。私もそのような経験を通して、自分の力にしていきたいです。

【至学館大学 ３年】

これからの学校のあり方を知ることができました。「教師中心ではなく、学ぶ子どもを中心にするのが大切だ」ということがとても納得できました。子どもにとっての教師のあり方をいろいろ聞き、勉強になりました。子どもにとってのアンケートでの「やる気のでる声掛け」はすごく参考になると思い、見ることで良かったです。

【至学館大学 ３年】

「良い教師・できる教師」についてよく考えることができました。自分が小学生の頃も、好きな先生や嫌いな先生がいました。どんな特徴だったかを考え直して、生かすことができたと思います。ＳＰ活動では、困っていそうな子がいたら早く気づいて対応してあげられたと思います。私は小学４年生の弟がおり、テンションの浮き沈みが激しいです。学校には、いろいろな子がいると思うのでＳＰ活動でも意識したいです。「日常の中にも学びがある」というお話は印象に残っており、私も日常の中で意識していきたいです。

【至学館大学 ３年】

“子どもが学びたいと思えるような教師や大人になること”が、「良い教師」なのかと考えました。グループワークで、去年からＳＰ活動をしている人の話を聞いて、小・中の授業のサポートができることや、授業を見られることを聞いて、その行動力が凄いと思いました。実際に学校で子どもにふれあうことは、教師になった時に良い経験になると思うので、自分も行動していきたいと改めて思いました。９月から中学校での教育実習があるので、ＳＰ活動を通して子どもと関わっていく上で大切な力を身につけていきたいです。

【至学館大学 ３年】

実際に教員として働いてから初めてこうした研修会に参加し、たくさんの学びがありました。まず、「教師が教えるのではなく、子どもが学ぶ」授業スタイルが重要であるということです。現場に出て授業をしていると、自分が教えて子どもが聞いているだけの状況よりも、グループワークで子どもたち自らがタブレットで調べ学習するような内容の方がはるかに楽しそうに、生き生きとした姿をしています。そうした姿を思い返しても、**“自ら学ぶ”ことは大切**だと感じました。また、放課に遊んでいる中で、トラブルや友達とぶつかる子どももいます。その時に、相手の気持ちを考えたり、謝ったりすることがあるのですが、これは遊ぶ中で学んでいる（学び＝遊び）のだと思いました。「見守る・待つ・支える」ことについては、私はなかなかできていないと感じています。しかし、この３点に気を配ることで、子どもたちの意見や考えを引き出すきっかけになると思ったので、すぐに言葉にしたいと思った時も一度考えて、自分の行動を見直してから対応していきたいと感じました。

【シニアＳＰ １年目】

